

令和5年度 各都市教頭会 研究報告 1

岐阜市小教頭会

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

48校、52名の教頭が、年間11回の教頭会で、教頭としての資質向上に努めてきた。

ブロック別研修会では、全国共通研究課題の第1課題から第5課題を、5ブロックでそれぞれ担当し、実践交流を行った。本年度は、第2ブロックが、子どもの発達に関する課題について、岐阜県小中学校教頭会研究大会で発表した。また、専門部会では、研究部、組織部、広報部、厚生部に分かれて実践交流を行った。それぞれ、テーマに沿った実践を持ち寄ることで、充実した研修をすることができた。

計画に基づいた実践交流以外にも、ICT活用や働き方改革、若手教員の育成について等、その時々話題について交流し、考えを広げたり深めたりできたことが効果的であった。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の様々な対応についても、よりよい対応を考えることができた。

(文責 加納西小学校 長谷川 圭奈)

羽島市教頭会

未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり

羽島市教頭会では、定例会の中に各校の実態交流や取組の様子を交流する研修、外部からの講師を招いた講話形式の研修を5回にわたり位置付けている。

各学校における研修の充実が求められる中、自校の研修の様子を紹介したり、他校の研修会を参考にしたりして、教員の資質向上に取り組むことができた。

研修内容の一例として

- ・防災、防犯にかかわる取組や研修について
→各校の反省を交流、講師の紹介など自校の企画や対策について参考になった。
- ・外部講師よりの研修(地元企業の代表者を招いて)
→教職に限らず、人材育成や、組織経営のマネジメントにかかわるお話を聞くことができ、視野を広げることができた。

今後も交流を充実させ、市内各校の横のつながりを大切にして、職員指導や研修の充実の一助となる研修を進めていきたい。

(文責 竹鼻中学校 安藤 宏)

岐阜市中教頭会

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり

23校の教頭が定例の教頭会の中で研修会を行い、魅力ある学校づくりと、資質の向上を図ってきた。各学校、様々な教育課題と向き合っている中で、ICTや生徒指導問題、特別支援教育などの実践内容を発表してきた。発表を聞いて、自校でもできそうな取組を自校に持ち帰り、生徒の学習や生活に活用してきた。

また、ブロックごとに違った課題をもっているので、テーマを決めて研修を行ってきた。

PTAの運営についてや部活動についての話題が多く、今後の運営についていろいろな視点から考えていくことができた。

今後、魅力ある学校づくりをしていくためにも、学校、PTA、地域といかに連携していくかを考え、三者がお互いに協力して、魅力ある学校づくりをしていけるようにして・期待を考えている。

(文責 岐阜西中学校 野川 三徳)

各務原市教頭会

教職員の専門性を高め、児童生徒にとって魅力ある学校づくりを推進する教頭の役割

本会は、昨年度、東海・北陸大会で発表する機会をいただいた。それを区切りとし、今年度より研究テーマを改めた。特に「生徒指導提要」の改訂を受け、教頭の関わり方として、研究内容に「自己指導能力を育て、高める生徒指導を推進するための指導の在り方」や「発達障がい等の多様な諸問題に対応できる校内支援体制の整備」、「適切な指導・支援に関わる関係諸機関との連携」を位置付け、研究を進めた。

講話研修については、その機会を増やし、関係諸機関との連携や学力向上など、実践に直結するものを実施すると共に、市教育長講話や課長講話を複数回位置付け、教頭として幅広い知識や専門性を身に付ける機会とした。また、講話後にグループに分かれ、学びをどう生かしていくかを話し合うことで、主体的な研修にできるように工夫した。今後も、児童生徒にとってどうなのかをキーワードとして、「魅力ある学校づくりを推進する教頭の役割」を模索していきたい。

(文責 川島中学校 亀山 智子)

各郡市教頭会 研究報告 2

山県市教頭会

組織を生かした学校運営

～「豊かな人間性と創造性を育み、未来を拓く
学校教育」の具現のために～

標記テーマ具現のために年間9回の実践交流を元に研修を進めてきた。その他にも、下記の研修会にも参加し、教頭としての知見を広げ、学校運営に生かすことができた。

① 「防災科学教室」7月

講師 河村一彦先生

② 「不登校にかかわって」10月

講師 岐阜大学大学院医学系研究小児科学教授
加藤善一朗 先生

教頭として、自分がすべての教育に率先してかかわるとともに、学校として、組織を生かして学校運営にかかわる体制づくりについて、全体交流与中学校区別交流を通してお互いに学びあうことができた。

(文責 伊自良北小学校 高橋 茂洋)

本巣市教頭会

未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり キーワード<自立・協働・創造>

本市教頭会では、全国公立学校教頭会統一研究主題を掲げ、全国の6課題の中から自校の実態を踏まえた計画のもとで実践し、年6回の研修会で交流・討議を行った。課題解決の視点は次の3点。

- (1) 働き方を踏まえた教職員の力量の向上
- (2) ICTを利用した教育の情報化への対応
- (3) 外部人材の有効活用 (専門家, PTA)

教職員が働き方や指導力を向上できるよう、教頭が働きかける時間を生み出すため、教頭業務をスマートにするICTの効果的な利用について知識を広げたことで具体的な実践につながり、成果を上げた。また、教職員の業務に対する動機付けや指導力を高めるため、専門家やPTAを招聘した授業や職員研修等の持ち方について知識を広げたことで、教職員の働き方の効率化につながる手掛かりを得ることができた。

(文責 一色小学校 原 幸和)

瑞穂市教頭会

教職員が主体的・協働的に力量を高める 働きかけのあり方

毎月の教頭会において、テーマにおける各校の具体的な実践を交流することで、研究を進めている。

今年度は新たに上記のテーマを掲げ、主体的・協働的な研修体制の構築を図る働きかけと共に、研修体制構築の核となる教員への働きかけ、主任層教員の経営・分掌を推進する力の向上を図る働きかけ、若手教職員の学習指導力や生徒指導力の向上を図る働きかけをした。今後は、全体への働きかけと、力量や状況に応じた個への働きかけをバランスよく、タイミングよく、適切にしていくことができるよう、研究を進めていく。

また市教育長、市教委学校教育課長のご講話を拝聴することで、管理職として大切にすべきこと等、教頭としての資質向上につなげることができた。

(文責 穂積小学校 串田 茂)

羽島郡教頭会

豊かな人間性と創造性をはぐくみ 未来を拓く学校づくりの推進と教頭のあり方

一昨年度より、教頭会のあり方について考え、より良い教頭会の場を高めていこうとしてきた。教頭として真に学びたいことを見出し、各校の実践や率直な意見交換をする中で、主体的に学び、高め合う教頭会としてきた。

令和5年度は、スクールロイヤーに学ぶ危機管理のあり方、若手教員やミドルリーダーの育成、管理職向けメンタルヘルズ講座、子どもの発達を支える学校・家庭・関係機関との連携のあり方、教育関係の著作権・個人情報の取扱い等、真に学びたい内容について、年11回の研修会を行った。

研修会での積極的な学び、交流を通して、所属職員の資質・能力の向上を図るための教頭としての指導力向上、関係機関等との連携強化、組織的な学校運営に向けた幅広い資質・能力を高めていくことが必要であることを確認できた。

(文責 北小学校 馬場 雅也)

各郡市教頭会 研究報告3

本巢郡教頭会

「たくましい北方の子」を育む学校教育
～ 町内連携に果たす教頭の職務と役割 ～

本巢郡北方町は、今年度より北方町立北学園と南学園の義務教育学校を開校させた。

昨年度までに計画してきた内容を実施し、特に15年間を見通し設定したカリキュラムを活用した実践をしてきた。子どもたちが安全・安心に生活し、「たくましい北方の子」の育成をテーマに掲げ、児童生徒の育成に取り組んだ。

具体的な取り組みは以下の通りである。

- 小中スムーズな移行に向けた児童生徒指導
 - 系統的な教科・特別活動の実施
 - ・5年生以上で教科担任制の授業の実施
 - ・特設教科「北方科」の実施
 - 両学園諸行事の共同開催
 - 部活動の合同実施
- (文責 北方町立南学園 福永秀雅)

海津市教頭会

信頼される学校づくりに資する「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価に関すること
(カリキュラム・マネジメント)

海津市では、令和6年度より海津町にある全5小学校が統合し海津小学校が開校するため、新たな学校の在り方について検討している。また、コロナ後の新しい地域や家庭との連携についても各校が実態に応じて模索しているところである。

そこで、今年度は上記のテーマについて、以下のような方法で研究を推進した。

- ①SWOT分析により、自校の外部環境と内部環境の利点を整理した上での研究実践
- ②定例の市教頭会(校区ごとを含む)の実践や情報の交流

ここ数年、150周年記念行事やPTAの組織の見直し等、地域や保護者との関わり方について、これまでの学校の在り方を見直す機会が多くある。他校の実践を自校にも取り入れ、「強み」を十分に発揮しながら実践研究を積み重ねていきたい。

(文責 下多度小学校 寺倉 邦明)

大垣市教頭会

未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり
キーワード〈自立・協働・創造〉

第12期のテーマを継承し、令和5年～7年度の3カ年で、上記のテーマの具現に向けた取組の実践交流をしている。

研修方法は、学校規模や校種を考慮した4つのグループに分かれ、年間4回のうちどこかで全員が発表するように計画し、各校の実践を学び合うようにした。

3カ年の初年度となる今年度は、令和9年度の県大会を見据え、大垣市が担当する第2課題「子ども発達に関する課題」を取り上げた。

初年度のため、第2課題に関わる実践を幅広く募ったところ、「学力向上や研修体制の取組」「児童生徒に育みたい力と教育活動の工夫に関わる取組」「様々な児童生徒へ対応する校内支援体制の取組」に関わる実践が多く紹介され、学びを深めることができた。

(文責 荒崎小学校 奥村 直也)

養老郡教頭会

ひとりひとりが輝く教育の創造
～地域の教育力とICTの利用を通じた「多様な学び」、教職員の資質の向上、やりがいのある職場の推進～

昨年度に引き続き、「教職員の専門性に関する課題」に重点に取り組んだ。特に今年度は、複数校連携によるメンタリングに挑戦した。

- ・町内2校が連携し、教科指導や保護者対応、困り感等についてメンタリングを実施した。
- ・夏季休業中には、教頭会主催の道徳科の授業についての研修を実施した。研修は事前(オンデマンド)と当日(対面)に分けてハイブリッド方式で行った。
- ・メンタリングでは若手育成を軸にしながらも、学校の中核となるメンターの育成にも取り組んだ。
- ・月に1回ある教頭会では、メンタリングの成果と課題に加え、テーマに関わる実践を交流し、学びを深めた。

次年度は、さらに教頭の連携強化を図り、町全体で学び・育ち合える環境を整備していきたい。

(文責 東部中学校 林 徹爾)

各郡市教頭会 研究報告4

不破郡教頭会

豊かな人間性と創造性をはぐくむ学校をめざして
～教職員一人一人の
資質や能力を高めるための教頭のあり方～

児童生徒一人一人に「豊かな人間性」と「創造性」を育むには、教職員が確かな指導力を発揮することが必要である。そのためには、教職員一人一人が自分の指導を真摯に振り返り、自ら資質や能力を高めていく不断の営みが必要となる。教頭はその営みを適正に指導・支援していく責任を果たす必要があると考え、研究主題を設定した。

下記3点について各校で実践し、発表・交流を行う。

- (1) 地域・関係機関連携について
- (2) 幼小中高連携について
- (3) 子どもの発達に関する課題について

教頭同士の情報の共有、各校における実践や学校課題についての意見交流、今日的課題に関わる講話により、教頭として必要な資質・能力について自らを振り返り、見直す機会となった。

(文責 垂井小学校 馬淵 尚美)

揖斐郡教頭会

未来を切り拓く資質・能力を育成する
カリキュラム・マネジメントの在り方

本研究テーマを掲げた1年目として、主に次の3点について各校で実践した。

① コミュニティ・スクールの運営の工夫
多方面から広く意見を聞けるようメンバー構成を工夫し、外部講師などの人的資源の発掘に力を発揮した。

② 学校評価の工夫
保護者と児童で内容をそろえたり学校課題に照らして項目を変更したりするなど、項目数を絞ってアンケートの精選を図った。

③ 授業改善
一斉授業からの脱却を目指し、小集団での学び合いに楽しさや喜びを見だし、自らの学びを振り返られるよう授業改善を行った。

次年度は、資質・能力が身に付いたかをどう評価し、それをどのように改善につなげていったらよいか、さらに研究を進めていく。

(文責 大野中学校大野分校 窪田 洋一)

安八郡教頭会

誰もが自己肯定感をもち、
生き生きと生活できる学校をめざして
～組織の活性化を図る教頭の役割～

「子供たちに自らの伸びを実感させ、自己肯定感をもたせる」指導の実現を目指し、教頭として、教職員一人一人の指導力と教職員が組織的に関わっていくことが重要であると考え、上記主題を設定し、実践の交流をしながら研修を進めた。

- (1) 組織を活性化するための校内体制の工夫

全職員の校務分掌の見直しを図り、複数職員で担当することによって、アイデアの充実とバランスの良い仕事量へと改善が進んだ。モデル校による日課の見直しについて、成果と課題を共有しながら働き方改革の推進を図っている。

- (2) 教職員一人一人の資質や専門性を高める研修の充実及び取組

研修を計画的に行うための、ミニ研修や研修形態の工夫ができています。郡内で校内研究会を周知することにより、互いに学び合える場を広げることができた。

(文責 登龍中学校 伊藤 真理)

関市教頭会

夢のある明るい学校づくりの推進
～幼保小中・地域とのより良い連携を図るための教頭の役割～

未来に向けて夢や希望をもち歩んでいける子どもを育てるために、幼保小中・地域が連携をし、多くの目で子どもを見守り、良さを認めることで自己肯定感を高めることが重要と考え、以下の研究を行った。

- (1) 社会に開かれた教育課程の実践（地域と連携した特色ある学校づくり）

- (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- (3) 幼・保から高校までの滑らかな接続に向けた連携
研究を通し、地域の実態に応じたカリキュラムマネジメントの充実、地域人材の開拓・活用と地域コーディネーターの必要性、学校運営協議会と地域共同活動の在り方、幼保小中の交流の活性化等について、実践を通してより深く追究していく必要があることが明らかになった。次年度の研究につなげていきたい。

(文責 倉知小学校 白戸 靖二)

各郡市教頭会 研究報告5

美濃市教頭会

教職員の資質向上と職務意識の高揚
～ミドルリーダーの育成を通して
チームを高める教頭の役割～

美濃市教頭会では研究テーマ2年目を迎え各校の実情に合わせた取り組みを行ってきた。また、市全体の取組として校長会が主催する次世代リーダー研修やミドルリーダー研修の内容も情報提供していただいている。

その上で対象となる職員については、校務分掌を通して資質向上を目指すことで職務意識の高揚につながるのではないかと助言・指導を行っている。また、対象となる職員に限らず、授業等における外部講師の積極的な活用を促し、連絡調整を支援することで職員がより専門的な知識や技能を得ることができるようにしている。更に今年度より市の方針として「学校の当たり前の見直し」を進めている。このことを学校全体で取り組み、職員の意識改革を教頭として図っている。

(文責 美濃中学校 石原 隆)

美濃加茂市教頭会

「学校が楽しい！」といえる学校づくり

第2次美濃加茂市教育振興基本計画『FROM-0歳プラン2』のもと「学校が楽しい！」といえる学校づくりとして、ICTの活用を重点に、「授業・諸活動での活用改善」「保護者・地域との連携の工夫」「PTA活動での活動」について各学校での実践を交流し、互いに良さを取り入れるとともに、県の研究大会(第3分科会)においても実践として発表することができた。

ICTを活用することで、学校、家庭、地域との情報共有が図れた。また、市内小中の共有財産としてまとめたことで職員が児童生徒とかわる時間が増え、「学校が楽しい！」といえる学校づくりにつながった。

実践交流以外にも、講師を招いて、危機管理研修や教育相談研修、また、主任保育士会との交流を通して、研鑽を深めるとともに、多方面のつながりをつくることができた。

(文責 東中学校 渡邊 寛樹)

郡上市教頭会

織・運営に関する教頭の役割
～「つながり」をつくる教頭のマネジメントを通して～

本市の課題から、私たち教頭の役割は、学校内での協働、そして地域との協働を生み出すマネジメントであると考え、「授業力向上」、「地域連携の推進」を共通実践内容として取り組んだ。

- 他校の要請訪問・市内自主公開授業研究への参加をコーディネート
- 「先生のマイサポーター制度」の実施
- 中学校区学校運営協議会での協働の推進
- 総合的な学習の時間(郡上学)での学校運営協議会との協働の推進

「つなぐ」を合言葉に、「チーム学校」「チーム郡上」をつくる連携・協働を推進するマネジメントについて考え、実践を行うことができた。今後は、効果のあった実践を各校の実態に応じて生かしていくことや、さらに効果的な市内連携や地域との協働を推進する体制づくりを考えていく。

(文責 郡南中学校 永田 千奈津)

可児市教頭会

豊かな人間性と創造性を育む
笑顔の学校をめざして

本市では、「未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』をはぐくむ」を念頭におき、自分の「笑顔の“もと”」を自信をもって語ることができる子どもを育てるために、各校特色ある教育活動を行っている。それを具現するには、校長のビジョンを受け、教職員への具体的な指導・助言が必要である。そこで、今年度、「教職員の指導・援助」「教職員へのメンタルヘルス」等につて、実践交流を行った。

「教職員の指導・援助」の実践交流では、「若い職員」「中堅等職員」「一人職・非常勤職員」への関わり方について、日頃感じていることを出し合い、困り感を共有したり、解決策を一緒に考えたりした。各校の実践より、子どもだけでなく、教師自身も笑顔があふれる学校にするために、教頭が常にアンテナを高くし、職員に寄り添い、伴走しながら指導助言していくことの大切さを再確認するよい機会となった。

(文責 土田小学校 杉本 和昭)

各郡市教頭会 研究報告 6

加茂郡教頭会

子どもが安心して過ごせる学校づくり・
環境づくりを目指して
～魅力ある学校づくりに向けた教育環境の整備～

今年度の上記テーマについて、次の3点を重点として、各校で取り組んだ。

〈重点項目〉

- ① 働き方改革の工夫
- ② 安全に配慮した環境整備や取組
- ③ 魅力ある行事や職員間の決め事

その実践を持ち寄り、研究会として交流した。交流の中で、具体的な教育課程の工夫や行事の精選などの働き方改革の改善事例や、不審者対策やグラウンドの釘対策などの安全にかかわる取組などの事例が多く交流できた。

学校運営協議会やPTAとの連携を有効に活用し、地域ぐるみで児童生徒を見守り、成長させていく環境づくりをこれからも推進していけるよう今回の実践交流を生かしていきたい。

(文責 川辺中学校 前田 邦博)

多治見市教頭会

特別支援教育の視点を入れた学校のリ・デザイン
～SEOT分析を踏まえた「育成」と「仕組みづくり」を中核として～

多治見市教頭会では、今年度上記のテーマの具現に向け、「学校課題の把握」「ICTの活用」を重点項目とした。

一つ目は、特別支援教育の視点から学校経営をデザインし直すために、SWOT分析による学校課題の明確化と、これを踏まえた「育成」と「仕組みづくり」の視点から各校で手立てを講じた。各校での実践を交流することを通して、自校に生かせるよう手立ての一般化を図った。

二つ目は、GIGAスクール構想第2期に向けてICTの研修を定期的に行った。具体的には、iPadの校務の効率化への活用の仕方や、生成Aiの活用の仕方等、自分たちで研修し、知識・技能を高め実践化することができた。

今後は、ICTの活用を進めるとともに、さらにインクルーシブ教育システムの構築を進めたい。

(文責 南姫小学校 坂田 俊広)

可児郡教頭会

ICT活用を推進する小中連携の在り方

今年度は、昨年度に引き続いて、タブレットを活用した授業力の向上に取り組んだ。御嵩町は教頭会が学力向上推進事業を兼ねており、より小中が連携して、各学校の成果と課題を交流しながらICT活用の推進を図ることを目的とした。主な実践として以下の2点を行った。

- ① 校区ごとに、全校研究会授業を小中の職員が参観し、ICT活用の有効性について実践を紹介しながら情報共有する場を位置付けた。
- ② 町拡大交流会において、ICTの活用方法について、研究会において意見交流を行った。

今後も、ICTの環境整備及び教職員のスキルの向上により、小中連携を図りながら、児童生徒の学力向上に結び付けていきたい。

(文責 向陽中学校 嶋崎 博一)

土岐市教頭会

「生きる力」の育成と今日的課題に応じる
教育を推進するための教頭の役割
～学力向上に向けた授業改善における教頭の役割のあり方～

本市では、テーマの具現に向けて「確かな学力の育成」に重点を置き、職員指導と教頭の役割について以下の内容で実践・交流研修を実施した。

- ①土岐市版「授業の土台 3視点」を切り口にした授業改善
- ②各中学校区における9か年教育（小中接続）のあり方
- ③効果的な学習環境（ICT）の整備
- ④主体的な学びを生み出す「家庭学習の手引き」

特に授業改善や小中接続については、研究指定校の実践や各校の取組の交流から、中学校区の課題解決に向けた教頭の役割を明らかにし、具体的な連携の動きを作り出すことができた。

また、先輩校長先生のご講話や外部講師による今日的な課題に関わる研修を通して学び合い、教頭としての資質・能力の向上につなげることができた。

(文責 土岐津小学校 安藤 律子)

各郡市教頭会 研究報告 7

瑞浪市教頭会

学校の課題解決に向けた実践力の向上

教頭の職務は多岐にわたり、学校運営を左右するものに関わることが多い。そこで瑞浪市では、昨年度に引き続き、各校の取組状況や成果と課題を交流することで、一人一人のマネジメント力を向上させ、よりよい学校運営につながるよう研修を行った。実践交流では、「コミュニティ・スクール」「教育相談体制のあり方」「PTAのシステム構築」「働き方改革」「校内の環境整備」「職員間のフォロー体制」について学び合った。また、研修では、外部講師を招き「著作権について」「学校徴収金について」「校内でのICT活用と環境整備」「教頭の職務について」など様々な分野について学び、スキルを上げることができた。今後も必要な資質・能力を向上させ、「チーム教頭」として一丸となり取り組んでいく。

(文責 瑞浪中学校 西尾大輔)

中津川市教頭会

自校の課題をふまえ、 教頭として力を入れて取り組んでいること

中津川市教頭会は、市内全28校、30名で構成され、講話や実践交流等で、教頭としての指導力や資質の向上に努めてきた。

実践交流では、県教頭会の6課題の中から、力を入れて取り組んでいる実践や市の教頭会で話題にして追究したい課題を取り上げて研修を進めてきた。毎月主提案と副提案各1名が実践発表をし、それを受けて全員で意見交流を行った。特に主提案では、校長会に指導者を依頼し、熱心なご指導・ご助言やご講話をいただいた。

「働き方改革の推進」「不登校対策」「同僚性の高い職員集団づくり」「組織力の向上」「幼保小中の連携体制づくり」等提案内容が多様であり、自校の実践に大いに役立てることができた。

(文責 付知北小学校 石原 聖子)

恵那市教頭会

組織の活性化と教職員の資質向上 ～若手教員の主体性を育み取組を通して～

恵那市は、新採3年目までの教員が約3分1、20代の教員は約4分の1を占めている。また、小規模の学校が多いため各校の実情に応じて教員を育てていく必要がある。そこで、次の3つの内容から、研究を行っていくこととした。

- (1) 教科指導力の向上を図る取組
- (2) 学級経営、生徒指導の力を伸ばす取組
- (3) ICTを活用した指導、支援の取組

研究内容は、昨年度までの形を踏襲したが、研究の進め方は大きく方向転換した。今年度、10月から1月までの教頭会で、実践交流の場を設けた。毎月、2人の提案を行ってもらい、小中学校長会会長からご指導をお願いするようにした。こうした研修方法の変更に最初戸惑いも見られたが、徐々に研修が充実してきているところである。

(文責 大井小学校 中西 善裕)

高山市教頭会

挑戦し続けるたくましさの育成 ～ふるさとと協働する学校づくりをめざして～

市内の全小・中学校がコミュニティ・スクールとなって4年目。これまでよりも一層、「社会に開かれた教育課程」の推進が求められている。

市としての面積全国一を誇る高山市には、小学校が19校、中学校が12校ある。各々の学校が、学校規模や地域の特色を生かした教育活動を展開している。

市教頭会では、市内31校を中学校区や支所地域の7つのブロックに分け、地域の特色を生かしつつ、小・中連携を意識した研究を推進した。

各ブロックは、「学校運営協議会の在り方」「地域連携」「保・小・中・地域の連携」「子どもの発達に関する課題」「不登校対応」などをテーマに掲げ、今日的課題にどう向き合うべきか、意見を交わした。実践交流は年3回実施し、各ブロックで内容を共有し、各校のよさや困り感を学び合うことができた。

(文責 日枝中学校 建石 淳)

各郡市教頭会 研究報告 8

飛騨市教頭会

「志を語り合い しなやかに挑み続ける飛騨びとを育む」教育を推進する教頭の役割
～地域の特性を活かしたふるさと教育の実践を通して～

飛騨市学園構想を受け、課題解決型のふるさと教育を推進してきた。主に、「地域と学校をつなぐ学校体制づくり」と「総合的な学習を核としたカリキュラムの改善」の2つを研究し、県大会の分科会1で発表した。

- 年間8回の教頭研修会に加え、電話・メール・Google ドライブ等を用いて日常的に研究を進めてきた結果、次のような成果が得られた。
- ・学校体制を整えたことで、地域と学校の連携・協働が円滑・持続的になった。
 - ・連携・協働に対する地域住民や教員の意識が向上した。
 - ・「課題解決能力」「自己有用感」「主体性」「地域への誇り」等、飛騨市学園構想で目指す資質・能力が身についてきた。

※詳細は大会要項や配信をご覧ください。

(文責 河合小学校 中谷 浩之)

大野郡教頭会

心豊かで、たくましく、ひとりだちする子
～ふるさと白川郷に夢と誇りを～

「ひとりだち」する児童生徒の具現に向けて、教頭の果たすべき役割について研究を進めた。

学力向上に向けた授業改善では、付けたい力を明らかにした研究構想に基づく研究推進や全職員に向けた研修会等を通して、9年間の学び方の系統を明らかにし、発達の段階に応じた学力を確実に身に付ける職員の授業力及び資質向上を図るとともに、学力向上推進教師や研推長、ICT教育担当への指導を行った。

よさを伝え合う学級経営では、各学年で委員会活動を担う「リーダープロジェクト(LP)」及び「結クラス(縦割り班活動)」を核に、児童生徒の自発的・自治的な取組を通して自立・共生・貢献につながる姿を組織的に把握・共有し、児童生徒の成長の実感へつなぐよう、毎週のブロック長会及び各指導部会において指導を行った。

(文責 白川郷学園 井上 誠)

下呂市教頭会

市内小中学校における研修主事を中心とした 校内研修実践とその状況

本年度より研修主事が配置された。下呂市においては、教師のICT利活用における授業力の力量向上を目的とし、下呂市教育会「情報教育研究会」と連携しながら各校での研修主事及び情報教育主任による校内研修が行われた。

教頭は、各校において、教職員の協働的な研修となるよう研修主事と連携を密に図る必要がある。また、その研修内容についても有効性を高められるよう配慮しなければならない。教頭会では、市内各校における校内研修の質の高まりに寄与できる研修や、研修主事への指導の在り方、また、実際の校内研修の効果等について検討した。

授業におけるICT利活用というテーマ設定は教職員の研修ニーズに合致しており、どの学校でも適切に行われた。その具体的研修内容も、教頭会や情報教育研究会で情報を共有し自校に効果的に取り入れる等、適切な連携を図ることができた。

(文責 下呂小学校 野尻 政徳)